

(仮訳)

東京栄養宣言 (グローバルな成長のための栄養に関する東京コンパクト)

2021年12月7-8日

世界中の誰もが健康で生産的な生活を送るためには良好な栄養が必要であり、誰一人として取り残されてはならない。栄養は個人の健康と福祉の基礎であるとともに、持続可能な開発と経済成長の基盤である。良好な栄養への投資は、人々の健康を改善し、一人ひとりの可能性及び生産性を伸ばし、国の経済発展を支える機会となる。

栄養は人間開発にとって重要である一方、2030年までに世界の栄養に関する目標を達成するための道のりはまだ遠く、子どもの栄養不良は依然として危機的な割合にある。地球上では、1億4900万人以上の子どもが発育阻害に陥っており、2000万人の乳児が低体重で生まれている。子どもたちの死因の約半数が栄養不良に起因する一方、成人や若者、そして子どもの過体重や肥満は記録的なレベルに増加している。世界の20億人が過体重又は肥満であり(そのうち70%が低・中所得国)、それは非感染性疾患を含む食事に関連する疾病のリスクと関連している。栄養不良は、開発の段階に関わらず、全ての国にとっての課題である。多くの国は現在、低栄養、過体重及び肥満が混在する、少なくとも2種類の栄養不良の「二重負荷」に苦しんでいる。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響により公平性が一層の課題となっている。パンデミックによって家計収入が減少し、栄養及び医療サービスの提供が中断し、健康的で手頃な価格の食事の入手が困難となっていることから、あらゆる形態の子どもの栄養不良が著しく増加している。それらにより、消耗症で苦しんでいる子供が1360万人増加していると言われている。また、新型コロナウイルス感染症により低栄養となった推定360万人の子どもが発育阻害に直面し、それにより生涯にわたって自身の可能性を制限されることとなる。

さらに、食料システムは気候変動の悪影響に対し一層脆弱となり、一方で地球温暖化の一因となっている。サプライチェーンの制限により、健康的な食品の価格は上昇している。国連食料システムサミット(UNFSS)は、我々の地球を保護しつつ、増加する人口を養うための持続可能で強靱な食料システムの必要性を強調した。

東京栄養サミットの開催は時宜を得たものである。我々、東京栄養サミットの参加者は、栄養不良を終わらせるために更に努力し、健康的な食事と栄養改善への公平なアクセス達成に向けて協力するために、団結している。政府、国際機関、民間企業、市民社会及び学術界などの幅広い

ステークホルダーや多くのセクターが行動を加速させる必要がある。

我々は、世界保健総会の世界栄養目標 2025、国連「栄養のための行動の 10 年」(2016-2025 年)及び持続可能な開発目標 (SDGs)達成に対する我々のコミットメントを再確認する。我々は、SDGs アジェンダの一部として 2030 年までにあらゆる形態の栄養不良を終わらせるために、健康、食、強靱性、説明責任、財源の 5 つのテーマ別分野にわたって栄養に関する更なる行動を取ることにコミットする。

1 健康： 栄養のユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)への統合

保健システムの強化は、栄養不良との闘いにおいて必要不可欠である。UHC の達成は栄養不良を終わらせるために最も重要であり、必要不可欠な栄養に係る行動が、必須の保健サービスとして効果的に統合され、保健システムにおいて優先されない限り、UHC は達成されない。UHC は、最も恵まれない人々や疎外された人々に焦点を当てた、人生の全てのステージを通じて重要なものであり、人々の健康ニーズに合わせたものとなるべきである。

UHCにおいて栄養を主流化するためには、政府と主要なステークホルダーによる協力が必要である。我々は、質が高く、手頃な栄養サービスを提供することを視野に入れつつ、保健システムを強化するための行動を取ることにコミットする。これらの行動には、母乳育児等を通じた乳幼児への最適かつ安全な食事を確保すること、学校給食等を通じたバランスのとれた健康的な食事の確保のために努力すること、関連する行動変容に向けて熟練した栄養の教育やカウンセリングを実施すること、保健セクター予算に栄養を組み込むこと、タイムリーな行動を取るための保健情報システムを構築すること、及び、不健康な食品のマーケティングを減らしつつ、効果的で手頃な栄養関連製品へのアクセスを促進することを含む。

2 食： 健康的な食事の推進と持続可能な食料システムの構築

健康的でバランスのとれた食事は、多くの SDGs 及び世界栄養目標を達成するための前提条件である。我々は、食料安全保障及び全ての人々に対する栄養を確保する強固な食料システムを構築する必要がある。我々は、健康的な食事に貢献する栄養価の高い食品へのアクセスを改善する行動を取ることにコミットし、並びに政策を策定し、及び実施する。食料システムに関する政策は、農業投入、食品生産、加工、流通、貯蔵、卸売、小売、消費並びに回収及び再流通を含む廃棄処分に関連するあらゆる側面において、その策定と実施における一貫性を確保するべきである。我々は、農業と食料システムを通じて、入手可能かつ手頃で健康的な食事を確保するために、栄養への更なる投資と行動を促すような政策及びインセンティブを必要とする。包括的な政策によって、需要と供給の両者に構造、政策、プログラミング及び行動に係る変化をもたらし、それによって食習慣を人々の健康と環境に資するものに移行させることができる。

食料システムは、気候に配慮した農業への投資を拡大し、関連の科学技術・イノベーションを活用しつつ、気候変動へ適応すべきである。食料システムを変えるために万能の解決策はない。持続可能な食料システム及び食事の改善に向けた行動計画に関する政策対話を実施するためには、世界的及び国内のレベルで全てのステークホルダー間の関与を強化し、拡大する必要がある。

3 強靭性：脆弱な状況や紛争下における栄養不良に対する効果的な取組

近年、紛争や気候変動の影響は、飢餓と栄養不良の世界的な増加の最大の要因となっており、世界の飢餓の 60 パーセントが脆弱性や紛争の影響を受ける地域で発生している。世界の脆弱で紛争の影響を受けている地域の約半数では、5歳未満の子供たちの発育阻害と消耗症や思春期の少女と成人女性の貧血が高い水準で発生している。これらの状況では、介入はしばしば短期的であり、単年度の資金に依拠しており、急性栄養失調の救命治療に焦点を当てたものとなっている。しかし、このような複雑な状況において、我々は、栄養不良を予防しつつ、危機にさらされている人々が長期化する危機の悪影響に対してより良く持ちこたえられるよう支援できるようにすべきである。

良好な栄養は、人々とコミュニティの存続及び強靭性を改善する中核であり、長期的な開発と安定を達成するために必要不可欠である。栄養への投資は、脆弱な状況や紛争下における最も脆弱なグループに利益をもたらすべきである。このようなグループの栄養状態の悪化を防ぐためには、栄養に加えて、保健、社会保障、水と衛生（WASH）、教育、農業といった強靭なシステムが必要不可欠である。

脆弱な状況や紛争下におけるより深刻な栄養不良の負荷に対応しつつ、我々は人道・開発・平和の連携（ネクサス）に沿ったシステム全体のアプローチを呼びかけるとともに、とりわけ政策、プログラム策定及び資金調達への柔軟かつ長期的なアプローチを実施し、最も危機にさらされている人々を対象とした予防及びマルチセクターのプログラムに投資し、並びに全てのステークホルダー間の調整を改善し、及び地域的な能力を構築しつつ、より良い意思決定のための日常的な栄養情報システムを強化することを支援する。

4 説明責任：データに基づく説明責任の促進

質の高いデータ収集、並びにエビデンスに基づく進捗評価及び報告は、栄養改善の成果を確保する鍵である。費用対効果に留意しつつ、データ収集のシステムが確立・強化される。我々は、データ収集及び分析に係る全てのステークホルダー間の調整を促進するよう努力する。

東京栄養サミットに先立ち、栄養に係るコミットメントを記録し、及び監視し、栄養に係る行動を促進するために、栄養説明責任フレームワーク（NAF）が世界栄養報告により立ち上げられた。政府、パートナー、市民社会のアクターは、栄養のために成果を出すため、データに基づく説明責任のシステ

ムを強化するために協力することにコミットする。データの改善及び成果のための透明性・説明責任の確保に特段の焦点を当てることは、栄養不良を終わらせるための進展の最大化にとって重要である。

5 財政：栄養の財政への新たな投資の動員

今こそ栄養へ投資することが重要である。エビデンスに基づいた国家計画の策定は、投資アジェンダとして戦略的に栄養を位置づけるための第一歩となる。費用予測を伴う計画は、全ての関連セクターにわたる国内外の資金を通じて持続可能な方法で資金調達される必要がある。サービス提供システムの強化を支援しつつ、資金管理能力を向上させ、その能力を栄養に係る成果に結びつけることは、効率性を改善し、更なる持続可能性を確保するために重要である。これらの行動により、栄養のために更なる資金を動員し、支出された資金に対しより良い栄養をもたらすという考えを実現させ、投資の社会的・経済的利益を最大化することができる。

世界的に経済的な困難が高まっている今日、我々は栄養に関し資金を提供する新たなパートナーを緊急に必要とし、官民及び国際機関により協同で開発された、新しく強化された革新的・触媒的資金調達モデルを含む、全てのセクターによる行動を歓迎する。我々はまた、栄養のための民間投資を動員し、ESG(環境、社会、ガバナンス)投資を促進する我々の努力の一環として、従業員、消費者及び社会のための栄養に関する企業行動の開示を推進するイニシアティブを評価する。

未来に向けて

集団的な努力に支えられた変革的な栄養のための行動と投資は、強化された説明責任と共に、成長のための栄養(N4G)のビジョンの中核をなしている。この点、我々は、東京栄養サミットにおける多様なステークホルダーとパートナーによる新しくかつ大胆なコミットメント(別添)を歓迎する。我々は、政府、ドナー、民間セクター、市民社会団体及び学術機関等の全てのステークホルダーを含む、今回のサミットのアドバイザリーグループの活動の包摂性を歓迎する。我々は、我々のひとりひとりが生み出す大きな進歩をたたえるために、2024年にフランスによって開催される次回N4Gサミットに対する期待を表明する。